

会議録

会議の名称	令和元年度 清須市行政改革推進委員会（第1回）
開催日時	令和元年8月5日（月）午前10時～正午
開催場所	清須市役所 北館2階 第1・第2会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 令和元年度 行政評価（平成30年度対象）に係る外部評価について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 （会議資料） 資料1 令和元年度 行政評価（平成30年度対象）に係る外部評価について 資料2 令和元年度 行政改革推進委員会のスケジュール 資料3 令和元年度 行政評価結果（平成30年度対象） 外部評価対象分 参考資料1 市民満足度調査結果と外部評価対象施策 参考資料2 市民満足度調査における施策の満足度・重要度について（令和元年度 外部評価対象施策）
公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	1人
出席委員	野田委員(会長)、齊藤委員、福井委員、綱島委員、川口委員、山田委員、高山委員、福田委員、中田委員
欠席委員	なし
出席者（市）	葛谷副市長、宮崎企画部長
事務局	（企画部企画政策課（企画政策係）） 後藤課長、服部課長補佐兼係長、河村副主幹、石附主査、服部主事
説明者	加藤健康福祉部次長兼子育て支援課長、前田新清洲駅周辺まちづくり課長、石黒学校教育課長、近藤生涯学習課長
会議録署名委員	川口委員、山田委員

1 開会

(後藤企画政策課長)

ただ今から、令和元年度 第1回清須市行政改革推進委員会を開催いたします。本日は、皆様大変お忙しい中、また、とてもお暑い中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は企画政策課長の後藤と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、委員会の開催にあたりまして、葛谷副市長からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(葛谷副市長)

改めまして皆様おはようございます。副市長の葛谷です。

令和元年度の第1回清須市行政改革推進委員会の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずはお礼ということで、皆様方には引き続き委員へのご就任をお願いしたところ、快くお引き受けいただき、本当にありがとうございます。

また、本日は猛暑ということで、梅雨が明けた途端に連続して猛暑日が続いており、本当にお体にはご自愛いただかないといけないような状況かなと思っております。このような暑い中でございますが、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

さて、市では平成28年度に策定しました「行財政改革推進プラン」に基づいて、委員の皆様から貴重なご意見をいただきながら、着実に行財政改革の取組を進めてきたところでございます。

プランの最終年である今年度につきましては、引き続き、委員会での議論を踏まえながら、市の行財政改革を進めることに加えて、令和2年度を始期とする行政改革大綱の策定を行ってまいりたいと考えております。皆様の活発なご議論をお願いしたいところでございます。

本日の委員会では、プランの中でも定められております行政評価の外部評価ということで、平成30年度の市の取組について、職員の方で行政評価をした結果をお示しさせていただきました。

この行政評価の結果を活用することにより、今後の事業の見直し・改善につなげてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様からは、評価の妥当性や客観性を確保するために、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事 令和元年度 行政評価（平成 30 年度対象）に係る外部評価について
（後藤企画政策課長）

本日は、委員の委嘱後、初めての委員会でございますが、委員の皆様全員に継続してご就任をしていただいておりますので、引き続き、会長は野田委員に、職務代理者は齊藤委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行を野田会長にお願いします。よろしくお願いいたします。

（野田会長）

皆様、おはようございます。

今日は、令和元年度の第 1 回目の委員会になります。

今日の議事についてまとめました会議録の署名につきましては、昨年度は福井委員と綱島委員にお願いをいたしましたので、今日は川口委員と山田委員にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議事は、行政評価に係る外部評価についてということですが、昨年度、清須市で取り組まれた施策・事務事業について、担当課で自己評価を行っていただいておりますので、その自己評価の結果について、我々が外部から客観的にもう一度評価するという位置付けになっております。よろしくお願いいたします。

今回の行政評価を活用した事務事業の見直し・改善につきましては、第 2 次総合計画や行財政改革推進プランに位置付けられた取組であって、この外部評価によって、評価の妥当性・客観性を確保していくということでございます。

議事を進めてまいりたいと思っておりますが、清須市における行政評価の基本的な考え方といったこれまでの委員会のおさらいや、外部評価として委員の皆様からどのようなご意見をいただきたいかといった点について、また、スケジュールも含めて、最初にご説明をお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

（服部企画政策課主事）

企画政策課の服部と申します。私から資料の説明をさせていただきます。

座って失礼いたします。

資料 1 令和元年度 行政評価（平成 30 年度対象）に係る外部評価について

資料 2 令和元年度 行政改革推進委員会のスケジュール
について説明。

（野田会長）

ありがとうございました。

この委員会の対象としている審議内容は非常にテクニカルで難しく、私もいくつ

か委員会を担当させていただいていますが、その中でもかなり難しい方ですので、その都度、分からない点なども踏まえてご意見をいただければと思います。

今ご説明いただいたのは、令和元年度の行政評価に関わる、といっても令和元年度の評価の対象は去年ですので、平成 30 年度に行ったものに対する、我々が行う外部評価についてということで、概要をご説明いただきました。

さらに資料 2 では、今後の予定としまして、単に外部評価を行っていただくだけではなくて、次期プランの策定についても、意見を言う機会を設けるということになっております。

以上のことについて、何かご意見やご質問等がございましたら、いただければと思いますが、いかがでしょうか。この後、対象施策について一つずつ、外部評価ということでご意見をいただこうと思いますけれども、進めていく中で、「どういうことかな」というところも出てくると思いますので、そこでもご意見・ご質問をいただければと思いますが、取り急ぎ進めていくということでもよろしいですか。後で遡ってもらっても結構でございます。

「異議なし」の声

それでは、概要とスケジュールについては了承をいただいたということで、先に進めたいと思います。

この委員会で、自己評価に対する外部評価を行うということで、様々なご意見を忌憚なく自由にお話いただければと思いますけれども、いただいたご意見全てに対応していくということは、中々難しい部分もあるかと思えます。ですが、対応できるものだけご意見をいただくというのは非常に限定的になりますので、意見自体はどんな観点からもいただき、その中でできる範囲で対応していくということで、今後進めていただきたいと思えます。

この後は、今回対象とした施策の一つずつ見ていくということになります。

それでは、資料 3 について、1 施策ずつ、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主事)

資料 3 令和元年度 施策評価結果（平成 30 年度対象） 外部評価対象分のうち「施策 202 子育て支援の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

施策 202 についての自己評価の結果でございますが、「Ⅰ 施策の関連データ・施策を取り巻く状況」では環境に関する状況を整理していただいて、さらに「Ⅱ 達

成度指標の状況」では施策の達成状況ですね、施策の満足度などがあって、達成状況を見ると。そして、「Ⅲ 平成 30 年度の主な取組結果」を踏まえた上で、施策を担っている主要な事務事業についての活動指標や、事業がどれくらいどういうふうに進められてきているのかということ「Ⅳ 事務事業評価」で見えていただいています。これらをもって最後に、「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」で、施策の評価と今後の方向性を見ていただいているということでございます。

何かご質問、ご意見があればお願いしたいと思いますが、どうでしょうか。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

意見ですけれども、資料左側の「施策を取り巻く状況」の下から 4 行目に、「平成 30 年度からは「子育て世代包括支援センター」を設置し、安心して就労と子育ての両立ができる環境づくりに努めている。」とありますが、子育てコンシェルジュがどれくらい利用されているかということに関して、そこではあまり質問などをされていないということをお耳に挟みました。話がしにくい場所だと言われる方も多いです。

例えば、妊娠中のママがそこに「ちょっと不安なんですけど」と相談に来ることは少ないので、パパママ教室というものが開かれているのですが、他にも色々な子育て支援の場を開催しているので、今は子どもがいなくても、もうすぐ子どもを持つということで子育てに不安な人たちは、そういった支援の場で子育ての質問をするとか、実際に子どもを交えて活動している場所にも来て、早目から、子どもが小さいときはどうやって育てるのかというのを、先輩ママから直接見たり聞いたりする方がいいのではないかと、私たち子育て支援をしている者の中で色々意見が繰り広げられています。ですので、子育てコンシェルジュやパパママ教室のところにも、チラシとかを配って、早目の対応が必要ですのでこういうものに参加してくださいね、参加すると色々なことが分かりますよ、という優しいコメントを出してほしいなと思います。

また、清須市の広報 8 月号では、「笑顔で子育て」というタイトルで、子育てがずっと特集されているのです。「すごいな、頑張っているな」と思ったのですが、私たちは清須市から委託を受けて、「ふわふわ」という事業を展開しているのですが、それはここには載っていませんでしたので、清須市でも色々なことをやってみえるのだなと思いました。私たち「ふわふわ」は、中々人が集まらないのです。こういう色々なところでたくさんのが催されているので、こちらに参加する人が増えないのかなと思うので、パパママ教室などでもチラシ配りを率先してやってほしいです。

それと一番のお願いは、赤ちゃんを産んでからではなくて、産む前からの手厚い指導も実施してほしいということです。せっかく子育てコンシェルジュをつくった

ので、その人たちにも浸透して、赤ちゃんがお腹にいるときから、色々なものに参加すると不安は無くなりますよというふうに指導してほしいなと思いました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

今のご意見は、資料1の右上にある外部評価の視点の4項目に照らしあわせてみると、評価の中で「子育てコンシェルジュへの相談件数」という指標をとられてはいるのですが、そこに至る前に、パパママ教室とか色々なことをやっていれば、もう少し改善の余地もあるということ踏まえて、指標値を変えるということは、もう結果が出ていますのでできないのですけれども、最後の今後の方向性のところに、今のような話を盛り込んでいただくということになるのではないかと思います。

何か補足するところがあれば、事務局の方でお願いできればと思いますが、どうでしょうか。

(加藤健康福祉部次長兼子育て支援課長)

子育て支援課の加藤です。よろしくお願いいたします。

今の委員のご発言につきまして、私どもは、平成29年度から子育てコンシェルジュ、平成30年度から母子保健コーディネーターを配置しまして、子育て世代包括支援センターの立ち上げをさせていただいたところでございます。また、今お話のありましたように、子育て世代包括支援センターでは、妊娠前から子育て期の相談窓口として、一体として窓口を設置させていただいているところです。

子育てコンシェルジュのお話もありましたが、平成30年度の実績につきましては、513件ありました。こちらにつきましては、あくまでも保育園や子育て世代包括支援センターの利用方法ということを、ご相談があれば紹介をさせていただくとか、健康推進課で実施している10ヶ月健診や子育て世代包括支援センターの事業、パパママ教室などがありましたらそちらに参加をさせていただきまして、今行っている事業の周知をさせていただいているところでございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございました。

改善の方向性もご検討いただければと思います。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。

事務事業評価の「保育園事業費」の活動指標②「保育園児数」にある平成30年度の目標値1,873人という数字について、この数字が目標値であるためには、あやふやな計算でこの数字に至ったわけではないと思うのですが、実際は1,641人という数字になっています。また、資料左の施策の関連データのところの保育園児数を見ますと、平成31年4月1日は1,589人という数字が出ています。この1,873人という数字は、どういうところから目標値に上がったのでしょうか。あまりにもずれが大きいですので、ご説明をお願いします。

(野田会長)

事務局、お願いします。

(加藤健康福祉部次長兼子育て支援課長)

目標値と実績数の数値の違いについてご説明をさせていただきます。

目標値につきましては、毎年10月に1か月間かけて、各保育園で入所申込みを受け付けているところにして、入所希望を受け付けた数を、数値としてあげさせていただいています。

最終的に、実績値の方になりますが、こちらは実際に保育園を利用した年度末時点の人数になっておりますので、目標値との差が200名ほどあるかと思いますが、これは、保育園への入所を希望して、実際は幼稚園に入られた方や、例えば、お母様が就労したいということで3歳未満児の入所を希望されたのですが、4月のときにまだ就労先が見つかっていないということで、入所を辞退された方による数値の違いだと感じております。以上でございます。

(山田委員)

なぜ数字が違うのか原因は分かりましたが、原因ではなくて、目標値自体をいわゆる希望という数字の合計数で表しているのも、その数字と実際どうだったかという数字で差が出てくるとなると、これを目標値としておいてよいのかというところを考えないといけないのではないかと思います。通常の出し方だと、希望した中から実際に入園した数を実質数字として、ここ何年かで平均して見ていくとか、これだとずっと目標値に達しない状況が生まれるような気がしますよね。そこまで必ずいこうとしているのであればいいのですが、この目標値の扱い方については、少しご検討いただいた方がよろしいのではないかと思います。

(野田会長)

これはそうですね、次年度ご検討いただいた方がいいですね。達成しないという形に必ずなりますので。普通は申し込んで変えますので、目標にすると絶対達成できなくなります。令和2年度以降、ご検討いただければと思います。

ちなみに、今の話に関連して、ここの評価というのはどうなっているのですかね。達成していないからというようなことが直接どこかで文章で書かれているわけではないのですかね。特に直接的には書かれていないですね。

ですので、このことによって今回の評価結果が大きく変わるということにはならないと思いますけど、今後の目標の設定の仕方については、また次年度ご検討し直していただきたいと思います。

他にどうでしょうか。

(川口委員)

川口です。本日もよろしくお願ひします。

私の方からは2点ほど。先ほどお話にもありました「子育て利用者支援費」の活動指標①「子育てコンシェルジュへの相談件数」について、目標値として435件とあがっているのですが、まず、ここの目標値というのは基本的には前年からの目標値ということによろしいのでしょうか。全体数として保育園、幼稚園または出産してすぐの方が何名いるかは分からないのですが、平成29年度から新しく子育てコンシェルジュという形でやられて、この数字設定というものが実際に適正なのかというところははっきりと分からないので、前年の実績を踏まえてこれくらいの数字を目標としています、というのを目標としていいのでしょうか。子どもが何人いる中で、相談件数がこれだけしかない、もしくはこれだけたくさんの相談が来ているのかという観点の方がいいのではないかという気がします。ですので、この目標値に関しては一応二重丸がついているのですが、適正なのかということを考えてほしいなということが一つ。

あと、「放課後子ども教室費」の決算額ですが、平成29年度が2,439万7,000円、平成30年度が4,894万9,000円ということのでかなり数字が変わってきております。目標値は達成できていませんが、この点に関して何か理由があれば、教えていただきたいと思ひます。以上です。

(野田会長)

2点ですね。事務局、どうでしょうか。

(加藤健康福祉部次長兼子育て支援課長)

まず、「子育て利用者支援費」の活動指標②「子育てコンシェルジュの相談件数」の目標値435件の設定につきましては、年度当初に、昨年度の実績をベースにした目標値をあげさせていただいておりますが、今委員が言われましたように、出生数など、色々なご意見があると思っております。私どもとしましては、子育てコンシェルジュとなりますと、どうしても保育園やたんぽぽ園など、そういう施設の利用人数が活動指標の目標値になっておりますので、平成30年度から始めました子育て

世代包括支援センターになりますと、やはり妊娠前からのこともありますので、そういったところにつきましては、健康推進課が行っている母子保健コーディネーターの数も含めて、総合的に検討していきたいと思っております。

(石黒学校教育課長)

学校教育課長の石黒と申します。

「放課後子ども教室費」の決算額ですが、今年度4月からオープンをしました清洲東小学校、星の宮小学校、桃栄小学校の3箇所において、開設ができるよう昨年度に工事を行った費用が2,800万円ほど上乗せになって、この金額になっております。以上です。

(野田会長)

1点目はどうでしょうか、平成29年度実績からは、一応80件弱くらい増えているという感じですね。少子化の中でも増えたことから二重丸ということで、いいのではないかなと思ったのですが、川口委員どうですか。

(川口委員)

そうですね、先ほど目標値としての数字のお話は出ております。平成29年度からの新しいことですので、今後の方向性の部分についても、特に子育てコンシェルジュに関しては、二重丸ということで特に何も載ってはいないのですが、まだまだ改善の余地も色々あるのかなと思います。先ほど中田委員のお話もありましたので、検討していただきたいなと思います。

あと、「放課後子ども教室の登録者数」は、今回目標値を下回っておりますが、新しく3教室増えるということで、今年度からはまた増えるということでしょうかね。

(石黒学校教育課長)

はい、増えております。

(野田委員)

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。

素朴な疑問ですが、「子育て利用者支援費」の平成30年度の執行率が2.9%になっていますが、72.9%の間違いいではないでしょうか。2.9%は非常に低すぎるか

など思いました。

あと、そもそもこの決算額自体が3万4,000円と僅かなものですが、相談件数も増えて、センターだよりの発行回数も3回で、3万4,000円でどの程度のことのできるのだろうかとなとすごく素朴な疑問がありまして、その辺りを説明していただきたいのと、もう一つ、参考資料2の個別意見を見てみますと、「保育園の数が少ない」という意見が5人くらい書いてあるのですよね。これは実際、他の市町村と比べて少ないという認識でいいのでしょうか。待機児童数もゼロで、ただ、今後の方向性の1番目に「もっと民間の保育施設の誘致をしなければいけない」と書かれているので、おそらく少ないという認識でこういう記載に至ったということでしょうか。

(野田会長)

2点ですね。一つ目は、数字がミスではないかという確認で、二つ目は保育園数についてです。いかがでしょうか。

(加藤健康福祉部次長兼子育て支援課長)

まず、執行率の数値ですが、2.9%で正しい形になっております。理由でございますが、平成30年度につきましては、この「子育て利用者支援費」の中で、認可外保育事業とあって、待機児童ゼロを目指す中で、公立保育園など認定をしている保育園以外のところで保育をされる方がお見えになられた場合、そちらの事業先で費用が高く掛かるということもありますので、その支援費として予算を計上させていただいておりました。そちらが111万1,600円ありましたが、私どもの方で対応が可能であったということで、平成30年度は実績がなかったため、予算額からいきますと、執行率は2.9%という形になっております。

あと、決算額3万4,000円で実績の方はどうかというところですが、子育てコンシェルジュの人件費については、予算科目が違い、正規職員の方に入っておりますので、こちらの中に入っておりません。こちらの3万4,000円の内訳につきましては、お便りなどの印刷製本費や、活動に係る消耗品費となっております。

もう一つの、保育園の数がどうかということになりますが、現在、市には公立保育園が13園あります。あと、小規模事業所という3歳未満児をお受けできるようなところが1箇所あります。平成30年度までは、そういうような実績でありましたが、今はお母様の社会進出が多く、3歳未満児の利用が多いということで、私どもとしましては、部屋の調整をさせていただくとか、今年度ですと、小規模事業所だとかそういうところを誘致させていただきながら、待機児童ゼロを目指しているところでございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

最初にお伝えしておくべきだったのですが、大体1施策10分ずつくらいの配分でして、今16～7分くらいかかってしまったのですが、一応次に進む前に、ここは結構意見が多いところかなという気がしますので、どうでしょうか、もし何かあればもう一つくらいは。

綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

綱島でございます。

素朴な質問というかですね、私の方で資料の読み込みが不足しているかもしれないので申し訳ないのですが、資料左下で達成度指標の状況がございまして、「市民満足度調査における満足度」というものが、比較をすると今回下がっています。達成が中々難しいという状況である一方で、例えば個々の、「公立保育園の利用者満足度」とか「保育園の入園待機児童数」といったところは評価されているということですので、当然、実際に使われている方の意見というか評価と、市民満足度ということですので幅広い年齢層の方の評価とか項目を含めると、異なることはあるのと思うのですが、このあたりのギャップというのが気になりましたので、何かご説明いただければお願いいたします。

(野田会長)

これは私からでよろしいでしょうか。

これは総合計画の審議会でも結構議論になりまして、子育てに関しては確実にかなり手厚く一生懸命やっているのに、満足度が低くなってしまったと。これは、データの取り方であったり、新しく入って来られた方であったり、あるいは数年前がものすごく高いとかであったりという部分がありまして、全く同じ対象者が同じように回答しているわけではないというところの要因が、結構あるのではないかなと考えてはいます。

全般的に満足度が低くなってしまっているという部分もあるのですが、決して、これだけを以って事業全てが駄目だったというふうに解釈するのは、今回は良くないだろうということで、若干そこは幅があるというか、何らかの外的要因があったのではないかとこのように解釈をして進めているということになると思います。おっしゃられるように、満足度調査がもうちょっと伸びてほしかったなという部分はございます。

そうしたら、最後にもう一回、全体を通じて質問を受け付けたいと思いますので、とりあえず次の部分に進めさせてもらいます。

それでは、施策203について説明をお願いします。

(服部企画政策課主事)

資料3 令和元年度 施策評価結果(平成30年度対象) 外部評価対象分のうち「施策203 学校教育の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございます。

ご意見等いただければと思います。どうでしょうか。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

お願いします。

まず、お礼を言いたいというのか、環境面については本当によく考えていただいて、長寿命化の計画による改修工事も行われ、それから市内全校にエアコン設置ということで、快適な学習環境を整えていただいているということ、本当に嬉しく思っております。

それから、私の意見ですが、施策の評価と今後の方向性のところでお願いしたいことがありまして、新学習指導要領に対応した小学校における外国語教育の充実ということで、小学校では担任が全教科を指導するということになっていますので、担任が英語の指導もしなければいけないということになるのですが、全部が全部、英語指導に自信があるわけではないので、ALTとかAETの方を全校配置ということにして、児童生徒の外国語指導に十分良い環境をつくりたいなと思っていて、今学校教育の中でやっている授業の見直しということを少しお願いしたいと思うのですが、今ちょうど、先週の金曜日から今週の金曜日までオーストラリアの方に中学校の生徒が行っているのですが、そういう一部の生徒が恩恵を受けるというようなことではなくて、全校に英語の指導者、補助教員ですけど、そういう人を確保するということの方に重点を置いていただいて、今までやっていた外国への派遣事業というようなことを少し見直す段階にきているのではないかなと思います。今は、小中学校でもパスポートを持っている児童生徒が半数くらいいて、結構夏休みなんかには海外旅行にも出掛けるということで、10年以上前から続いているそういう派遣事業を見直す時期じゃないか、もっと児童生徒全員が恩恵を受けるような、そういう学習環境にしていった方がいいのではないかなと思っております。

これからは学校教育の方も、やることばかりどんどん多くなってきて、今朝の新聞にも、教員が不足しているというようなことも出ていたのですが、教員の免許の更新制度についても、以前はそういうことも考えなくてはならなかったのですが、ある程度の年齢といいますか、退職間際になると免許を更新されない方がいて、免許を更新されないとそこで免許が無くなってしまいますので、非常勤講

師にもなれないとかいうことがあるものですから、やっぱり市全体として、これからは、そういう先生方への指導とかもしていかなければいけないのかなという、そんなことを思っております。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

全般的に、実施されている事業や指標値とかそういったことについては、一定ご評価いただいたなというふうに思います。

最後の、施策の今後の方向性について、とりわけ外国語、グローバル化に対応したような教育については、特定のというよりは、市民・児童・生徒みんなが恩恵を受けられるような形でという方向性というのも、ご検討いただきたいなというところかと思います。

他にどうでしょうか。

福井委員、お願いします。

(福井委員)

福井でございます。よろしくお願いします。

資料左下の達成度指標の状況にある「学校生活を楽しいと感じる児童・生徒の割合」というのが、目標値の達成が難しい見込みだということで、その具体的な理由が分かっていないので何とも言えないのですが、そのことに対して、資料右下の今後の方向性との関連性がちょっとよく分からなくて、この指標を上げるためにやっていかなければいけないことがあるのではないのかなということを感じました。その辺りについてご意見いただければと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。

何らかの事業に関連付けられるかどうか分からないですけど、最後の方向性に何か関連付けることはできますでしょうか。今、何か検討できているところがあれば、事務局からお伝えいただければと思います。広い話にはなりますので、楽しい学校生活を感じられるような、といっても多分、耐震化とかそういう話ではないでしょうし、教育の中身に関する話だと思いますけれども、施策に位置付けられるようなものはありますでしょうか。すぐになれば、今後またご検討いただきたいなということですが。

(石附企画政策課主査)

企画政策課の石附と申します。

「学校生活を楽しいと感じる児童・生徒の割合」の分析はどうかという福井委員

からのご意見ですけれども、学校生活が楽しいかどうかという指標は、「環境が充実していますか」とか、「授業は楽しいですか」とか、いくつかの切り口で聞いた上で、最終的に、「学校生活が楽しいですか」というような聞き方をしているところでございまして、やはり今、環境面については、空調や長寿命化といったところで一定程度、子どもたちが快適であるとか、そういうところは増えている状況だと思うのですが、その他の、授業の内容ですとか、そういった部分で少し数字が伸び悩んでいるのかなというところはありません、そのために、英語教育もそうですけれども、施策の評価と今後の方向性の二つ目にあるような、まちに対する愛着心を高めていこうという授業とか、あとは少人数学習を引き続きやっていくことで、授業が分かりやすいようにしていこうとかですね、直接そこにつながるかどうかという部分はありますが、そういった方向性で何とか上げていけたらなということを考えているところでございます。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

教育の内容、それから教師と生徒の関係、生徒と生徒の関係、多分この3つのことについては十分検討いただく必要があるかと思います。またご検討ください。

他にどうでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

齊藤でございます。

他の施策にも関係するところかもしれませんが、私も福井委員と全く同じところに疑問を持ってしまして、このA3の資料にぐっとまとめるのはすごく難しいことだとは思いますが、やや形骸化しているような感じが見受けられるのではないかなと思いました。私たちも、大学で色々書かなくてはいけないときに、去年のものを引っ張ってきて、ちょっと直して出してしまうこともあるので、そこは分からなくもないのですが、施策の目指す姿があって、今年何をしたかがあって、どれだけ達成したのか、そして、じゃあそこに対して今後どういうふうにアクションを起こしていくのかというところが、この1枚になっているわけで、例えば取組結果のところでも、達成度指標にあげてあるような学校生活に関することが見受けられないですし、そもそもなぜこれをピックアップされたのかなというところなのかもしれませんが、他では色々資料があるのでしょうけれども、このシートを見て、施策についてある程度知ることができるような情報というのは、ちょっと少ないのではないかなと思いました。

達成度指標の分析のところで、学校生活を楽しいと感じていない子が増えているのは、思春期における人間関係の影響を受けていることが伺えるということで、生

徒指導に工夫をする必要があると言っているのに、そこは今後の方向性にはつながっていないという、福井委員がおっしゃったこともそこかなと思うので、そこをどういうふうにやっていくのかというところと、学習の面で少人数教育は上手くいっているのではないかと評価をしていますけど、例えば人間関係というのは、人数が少なくなればなるほど、上手くいくかもしれないけど難しくもなるという面もあると思うのですよね。ですので、少人数教育をやったことによるデメリット、デメリットという言い方は適切ではないと思いますけど、もしかしたらそういう部分が出ているかもしれないと、そういうところを教育現場がどういうふうに関心して、今後どういうふうにつなげていくのかという、そこが重要なのかなと思いますので、学校教育課さんだけではなくて、教育委員会の方とか学校教育の現場の声というところは、こういうところに含まれるといいのかなと思いました。

最後になりますが、活動指標を見ていくと、例えば小学校でも中学校でも「教育振興費」の活動指標②は児童数・生徒数なのですよね。これってなんだろうと思いました。コントロールできるところではないので、児童生徒を増やすような活動をしたというのであればここに入るのかも知れないですが、そうでないならどういう意味があるのかなというところと、あとは「学校支援地域本部費」も執行率 100%なのに開催回数は減っているのですよね。だとしたら、有効性としては、開催回数は減ったけど違うところで力を入れましたよ、みたいな評価があるべきではないかなとも思いますし、「小学校整備費・中学校整備費」のところでも、空調設備の設置を目標にあげているけど、実施は次年度に繰り越したということは分かるのですが、繰り越した部分ではないところで執行している部分もあるので、もしかしたらそういう指標の実績がゼロのところは、何に使ったのかとか、そういったところを活動に含めた方がいいのかもしれないかもしれません。ちょっと中身のところがよくわかりませんが、そういったところは感じました。すみません、長くなりましたが以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

何点かあったかと思いますがけれども、それぞれの指標とその後の対応の関係性みたいなところを、もう一回吟味していただくということですね。

達成度指標の中に「学校生活を楽しいと感じる児童・生徒の割合」みたいなものを入れてしまっている、しまっているというか、これを入れるべきかということもあるのですが、これが入っているということは、通常、これを達成するために何をするのかという話になりますし、ここが最終的に目指す形の指標になりますので、これに対応したものがちょっと読み取りにくいというのはありますね。その関係は、これから検討いただければと思います。

これはまたご回答いただければと思うのですが、小中学校それぞれの「教育振興費」の活動指標が児童数・生徒数であることについて、教育振興の活動状況を児童

数・生徒数で見るとということは本当にいいのかとか、あと、ちょっと飛んでしまいますけど、設置に関わる場所の指標の確からしきとか、予算はこういうセットの仕方でいいのかとかですね、もし何か今の段階でご回答できる部分があればお願いできればと思います。どうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

先ほど施策 202 で山田委員からもご意見をいただきましたが、活動指標というのは何を意味しているのかということですが、当初この委員会で外部評価を始めたときにも少し問題になったのですが、まず、ある事務事業があって、ここでこれだけのお金を使って、これだけの活動をすることで、達成度に寄与していきますという関係がつけられていることが理想ではあるのですが、例えばこの「小学校教育振興費」ですと、3,313万5,000円の費用を使って、1万3,644時間の授業をしていると。それによって、満足度ですとか、「学校生活を楽しんでいる児童・生徒の割合」も上がっていくというような流れになると良いとは思いますが、やはり事業の中にはそれだけで計れないものもありまして、前回の委員会での議論の中で、扶助的な経費について、それだけの活動量を確保するという意味なのかというご意見をいただいた経緯もありまして、そういった性質の経費は、あくまでも予定数といえますか、そういう活動指標でとらざるを得ないものもあるのかなということで、ちょっと致し方ない部分はあるのですが、このような形でおいていただいております。「小学校教育振興費」の中身は、少人数学習に係る経費や、学校で掛かる、いわゆる学習教材とかそういうものを買ったりする経費ですが、それをいくら買ったとかそういう指標になるのか、中々悩ましいところがございます、そこは逆にご相談させていただけると非常にありがたいかなと思っております。

(野田会長)

ありがとうございます。

振興というものを具体的に数字に表すときに、今のところ技術的にはこういうものでとるしかないというのはすごくよく分かりますので、最終的に「学校生活を楽しんでいる」とつながるような振興を、達成の状況のところから見ていくということでご検討いただければと思います。

時間もあまりないので次に進もうと思います。どうしてもという場合はお受けいたしますが、何かございますでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

せっかく少し話題に出たので、お願いというか意見を伝えさせていただきます。

先ほどから話が出ている「学校生活を楽しいと感じる児童・生徒の割合」というところですが、例えば西枇杷島小学校ですと、給食の時間のときはマスクをして、1人ずつ座って一言もしゃべるな、食べ終わった人は、静かに待っていなさいということですので、子どもたちは楽しくないですけど、給食を残さないという率でいうと、かなり突出しているそうです。

他の小学校では、そういうことはしていないそうですが、行政から学校の教育現場に対して、どのようなことを言えるかということですが、子どもというよりも、やはり学校ごとに、特に校長先生の考え方で、そういう個々のやり方なんかもあると思いますので、今後こういう行政評価をやっていく場合に、正当に行政が介入すると色々問題がありそうですので、こういう指標に出す、出さないは別にして、学校の先生とより密に連携をしながら今後やっていただけると、最終的に生徒にとってより良い形になっていくのではないかなと思いますので、よろしく願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございます。

今おっしゃられた連携というのは、どこでも大変だと思いますので、教育委員会の方々も、どう方向付けるか非常に難しいと思います。そこは、今出た非常に良いキーワードが「連携」ということですので、ご検討いただければと思います。

そうしましたら、施策401について少し手短にご説明をお願いします。

(服部企画政策課主事)

資料3 令和元年度 施策評価結果(平成30年度対象) 外部評価対象分のうち「施策401 市街地整備の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございます。

ご意見等いただければと思います。どうでしょうか。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

3つの事業についてですが、一つ目の新清洲駅北土地地区画整理事業は、令和6年度の完結を目標としているということですが、あと2つの事業が完了する事業年度は、目標としてはいつになりますか。

(野田会長)

事務局、いかがでしょうか。

(前田新清洲駅周辺まちづくり課長)

新清洲駅周辺まちづくり課長の前田です。よろしくお願いいたします。

新清洲駅北土地区画整理事業につきまして、移転は令和6年度に完了ということになるのですが、土地区画整理自体の換地の完了時期は、こちらの事業が新清洲駅付近鉄道高架事業と関連しており、この敷地内で鉄道高架のための用地を捻出することになるため、そちらの事業が終わらない限り土地区画整理事業の方も完了ができないということになりますので、令和20年に新清洲駅付近鉄道高架事業が完了し、その後道路整備を2か年くらいかけて行い、そこから土地区画整理事業で行う換地処分が5年くらいかかるということで、今のところ新清洲駅北土地区画整理事業は令和27年に完了する予定でございます。

また、清洲駅前土地区画整理事業につきましては、令和7年3月31日までの事業期間としております。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

山田委員、どうでしょうか。

(山田委員)

ありがとうございました。

(野田会長)

他にご質問、ご意見があればお願いします。ここはハードに関わるところで、割と読み取りやすい部分がメインかと思います。

綱島委員、お願いします。

(綱島委員)

考え方というか、今後の話にもなってくるので、評価というところからは外れてしまうかもしれないですけども、達成度指標の状況の市民満足度との関係のところ、新清洲駅と清洲駅は当然主要な駅ということもありますし、比較的住民の方も近隣に集まっていらっしゃるといふか、利用者の方もそれなりにいらっしゃるということで、評価の方については当然、改良して整備をしていけば満足度というか評価は上がるというふうには受け取れるのですけれども、やっぱり市全体で見ると、個別の意見にもあったように、住んでいる方によってはあまり関係がない、恩恵を受けないとか、不便なところに住まれている方もいらっしゃると思います。これは非常に難しい問題だと思えますし、正直なところ、車が使え、使えないとか色々

な条件があるので、解決策ということは中々難しいかと思うのですけれども、市民満足度ということで一括りにすると、評価が全体として上がらないとか、ここでもあるように、ちょっと達成が難しいというようなことになりかねないので、今回はこういう形でもう設定をされているので、これで見えていくしかないということだと思いますが、多分市民全員の方が満足するというのは正直難しいと思いますので、今後の話になってしまうかもしれませんが、その辺りの考え方というかですね、評価や整理の仕方があるのではないかというふうに感じましたので、意見になりますが、もし何かその辺りのところのお考えがございましたら、お聞きしたいなということでございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

今の結論的には、あまり満足度調査を使わない方がいいということですか。

(綱島委員)

いえ、把握しきれないなというところがあって、先ほどの質問とちょっと似ているのですが、色々具体的な対策というか施策を打たれて、当然評価もされているということですが、やっぱり市民満足度ということで括ってしまうと、中々難しいなというところで、ただこれらの達成度指標の根幹の項目でもありますので、その辺りのバランスというか、全体では中々達成が難しい、だけど各論で見えていくと結構きちっとやられている、というところのギャップが難しいなというところですね。ちょっと意見みたいな感じになってしまいました。

(高山委員)

関連でよろしいですか。

(野田会長)

高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。

一通り終わってから、まとめて発言しようかなと思っていたことですが、実はこの市民満足度調査の参考資料を見比べていきますと、5施策のうち「子育て」「学校教育」「市街地整備」の3つの施策は「どちらともいえない」が増えているのですよね。それで「満足」「やや満足」が結果として減っているのですが、「市街地整備」に関しては、「やや不満」と「不満」も減っているのです。その辺りがこの資料からは読み取れないので、何とかしてほしいなと感じました。

特にこの施策 401 は、達成状況の分析の一つ目で満足度に触れていますけれども、ここに書かれている理由だったら「不満」が増えるはずではないかなと思います。ところが、「どちらともいえない」が増えているだけで「不満」は増えていないのです。その辺りをコメント欄なり、分析欄なりで、何か分かるようにされた方がいいのかなと思います。ちなみに、この後出てくる2つの施策は「不満」が増えていますので、先に申し上げておきます。

(野田会長)

ありがとうございます。

そうですね、今綱島委員から問題提起していただいたことについては、内訳を見ることによって、対応できる部分、明らかになる部分もあると思いますので、その辺りはもう少し丁寧に見ていただく必要があると思います。

ということで、今の達成状況の分析の一つ目のところについて、確かにこういう記述というのは再考すべきかと思いますので、そこは再考いただければと思います。

そうしたら、あと一つくらいお受けしようと思いますが、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の施策 405 について、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主事)

資料3 令和元年度 施策評価結果（平成30年度対象） 外部評価対象分のうち「施策405 公共交通の充実」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

皆さん、どうでしょうか。ご意見いただければと思います。

山田委員、お願いします。

(山田委員)

レンタサイクルの件について、主な取組結果に「あしがるバスの補完のため」という一文があるのですが、これは補完になる事業でしょうかというのが一つです。

レンタサイクルを通常運営されている他市町の内容を見ると、日々の生活にレンタサイクルを使用するというを主として考えてはおらず、いわゆる観光客とか、臨時に市町にみえた方に対するサービスの部分で運用されていることの方が多かろうかと思います。多分そのような形で、今後の方向性にある文章は書かれているのだと思いますが、具体的な内容が何か出てくるようであれば、お話いただける

とありがたいですけれども、何かありますでしょうか。

(野田会長)

事務局、お願いします。

(後藤企画政策課長)

企画政策課長の後藤でございます。

正直言って、山田委員がおっしゃられることが全てです。実際には、あしがるバスの補完をやっていきたいということで、当初始めたところがございます。ただ、現状といたしましては、春と秋のイベント時の土日を中心に運用しているということで、いわゆる繁忙期といわれる時期に、この自転車を使って、色々なところ、いわゆる清洲城や桜の名所、紅葉、お祭りを見てもらうということに特化しているのは事実でございますので、あしがるバスの補完も一部考えながら、やはりイベントを中心とした運用にしていきたいということで、今見直しをかけていこうと考えているところでございますが、今後レンタサイクルは、公共交通から若干逸脱する形に変わっていくということが見込まれるため、現状ではこのような書き方で留めさせていただいているということでございます。以上です。

(野田会長)

公共交通の対象者は別に住民だけではなくて、市外から来られる方を含めた意味でということになっている。それから、観光振興の足みたいな部分も入っているということですね。

山田委員、どうでしょうか。

(山田委員)

そうすると、この「公共交通の充実」という施策ではなく、観光の施策の中で展開をしていくということでしょうか。

(後藤企画政策課長)

最初に申しあげましたように、元々は公共交通としての補完でというふう考えていたところでございます。ただ、やはり限界があるというか、そのようなところが中々見込めないところがみえてきましたので、今後は、施策的には地域公共交通から若干逸脱して、観光に特化したような利用方法に見直していきたいというふうに見直しているところでございます。以上です。

(野田会長)

多分、最初の設定があまりない事例で、レンタサイクルで公共交通を補完すると

というのはちょっと違和感がありますので、それを観光振興にということであれば、より納得しやすい形になるかと思えます。

他はどうでしょうか。

川口委員、お願いします。

(川口委員)

この「コミュニティバス運行費」と「レンタサイクル費」ですが、決算額から利用者1人あたりの金額を計算すると、コミュニティバスで大体714円、レンタサイクルで1万3,000円くらいかかっているということで、レンタサイクルに関してはこれから要検討ということですが、コミュニティバスに関しても、台数を増やしてほしいなどの意見が出てはいるのですが、費用対効果として、ただ1台増やせばいいのか、1便あたりの利用者数が多くて7人くらいですので、その辺りも含めて、車の選択、人件費、車両費などを、どのように考えられているのか、計画等があれば教えていただきたいなと思っております。

(野田会長)

事務局、どうでしょうか。

(後藤企画政策課長)

まず、バスの乗車定員の関係ですが、サクラルートのは、ポンチョ型ということで大きなバス、いわゆるバスというものを使っています。他のオレンジ、グリーン、ブルールートにつきましては、現状では最大で11人、または10人しか乗れないという状況です。一概に、1車両の人数を増やしていけばいいということは特に考えていなくて、やっぱり交通弱者的な方、いわゆる高齢者の方で、免許を返納されて移動の足が無くなってしまったような方を中心として検討しているのが現実です。ですので、どうしても1台あたりの車両の人数が決まっておりますので、積極的な促進策を取りづらいところがあります。

あと、例えば「本数を増やせばいいじゃないか」、「バスを大きくすればいいじゃないか」というお話はよく承ります。ただ、先ほど川口委員もおっしゃられたように、費用対効果という面は特に考えてないのですが、逆に、総額でみたときの予算を、言い方が悪いですが、どこまで注ぎ込めばいいかと考えたときに、やはり市の体力というものがございますので、そういう面を考えた中で、このコミュニティバスというのは運行を考えていけないといけないという、ちょっとジレンマ的なものもございます。また、現在清須市内を11人乗りで回っているところというのは、道幅の狭いところもありまして、そこの利用者が多いから大きなバスを通しましょうというのも中々難しいところがございます。

ですので、市の体力を考えながら運用するとともに、利用者のニーズを何とか的

確に捉えながら、バスの運行を考えさせていただいた上で、元々3ルートだったものを、昨年の平成30年10月から1ルート増やしました。加えて、1ルートあたりの便数も、11便に増便させていただいたということがございます。

今は状況を見ているというところも一つあるのですけれども、ただ、延べの乗車人数につきましては、かなり増えておりまして、年間7万人くらい利用していただいております。便数を増やしたことによって、1便あたりの人数は減ってはいるのですけれども、ただ、これも多すぎてしまうと車両に乗りきれないというようなこともでてまいりますので、その辺りのところは、利用者ニーズを見ながら、ルート・ダイヤ改正等を進めていきたいと考えております。以上です。

(野田会長)

川口委員、よろしいですか。

(川口委員)

私も、ただただ市民の方の意見を尊重して増やすというよりも、単価的には約700円かかっているので、ブラッシュアップしながら便数を増やすというバランスを見てやっていただけるといいかなと思いました。ありがとうございます。

(野田会長)

ありがとうございます。

一応、施策の方向性を書いてある、今おっしゃられたルート・ダイヤの見直しと、バスロケーションシステムの導入をちょっとやってもらって、採算と福祉のバランスでどれくらいに落ち着けるのか、また来年見せていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

他どうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後の施策603について、事務局から説明をお願いします。

(服部企画政策課主事)

資料3 令和元年度 施策評価結果(平成30年度対象) 外部評価対象分のうち「施策603 文化財保護の推進」について説明。

(野田会長)

ありがとうございました。

皆さんどうでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

先ほどと同じようなコメントですけれども、例えば来場者数を達成度指標にしていて、今 4,200~4,300 人くらい目標値と乖離があるということで、方向性を見ると、今後もやっていきますよとありますが、同じようなことをやっていたら達成できないのではないかなと感じるところがあります。

今後も継続して魅力ある企画展を開催していくとありますが、多くの人に来て、多くの人に触れあってもらうことで、施策の目指す姿というものが達成できるというところだと思うので、多くの人に来てもらうためには、もっと広報が必要なのかとか、もしくは自分たちが魅力あるというふうに判断しているかもしれないけど、本当にそうなのかとかですね、そのところをきちんと精査して、ここで分析をされているのかなというところはちょっと疑問に思うところがあります。目標値を達成するためには、来場者を 5,000 人増やしたいわけですよね。私がもし担当者だったら、例えば清須市内の小中学校の児童生徒さんを合わせると 5,500 人くらいだと思うので、多分学校も前年度くらいから色々予定は決まっているでしょうけど、前もってすごくアピールをして、絶対来てもらうような、確保できるような形をとるとか、それが正しいかどうかは分かりませんが、やっぱり目標値を達成することだったなら、そういう努力もできるのではないかと思いますので、そこを目標値に掲げている以上、それを達成するというのも重要なことなのかなと思います。

また、県のミュージアムが令和 2 年 11 月くらいにオープンするというので、多分今、指定管理者の選定を県の方が進めていると思いますが、その連携というのは今年度後半、来年度くらいから色々されていくので、そういうところもすごく期待しての意見です。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

達成度指標である来場者数ということ踏まえて言うのであれば、既存でやっているもので、内容に関するようなところを工夫するというだけではどうなのかというところですね。それ以外に、広報を積極的にやるとか、何らかの戦略がいるのではないかなということで、色々なやり方があると思いますけれども、何かコメントできることがあれば承りたいと思いますが、どうでしょうか。

(近藤生涯学習課長)

生涯学習課の近藤です。

来場者数の件ですけれども、今日も非常に暑いですが、昨年度 8 月は本当に暑かったです。猛暑です。それにより、来館者数が非常に減りましたので、これが主な原因だと考えています。「夢広場はるひ」では、美術館・広場・図書館が一体型に

なっています。実際に広場も閑散とし、図書館も来館者数が減りました。これは、本当に猛暑の影響だなと思いました。

あと、色々な企画をやっています。広報についても、チラシやポスターはもとより、中にはプレスリリースをさせていただきながら、市の広報紙にも載せています。また、各種団体にもお声をかけさせていただいております。各学校についても、今までも学習の一環で来ていただいておりますが、特に「あいち朝日遺跡ミュージアム」の令和2年11月22日のオープンに向けては、周辺の名古屋市の西区さんの方にも、愛知県から声をかけていただいております。色々な方法をとってはおるのですけれども、まだまだやるべきことがあるかと思っておりますので、今後模索していきたいと思っております。

ちなみに、朝日遺跡については、平成30年度に愛知県と連携を取りながら、色々な活動をしました。今年度につきましても、10月には愛知県と連携を取りながら、市民センターを中心にワークショップやパネル展示などを行う予定です。また、芸術劇場を考古学落語で行います。これは、朝日遺跡関係の落語です。他にも、図書館に歴史資料展示室がありますので、特別展として、朝日遺跡の関係の展示をさせていただきます。そして、7月25日にプレスリリースをさせていただきましたが、愛知県と私どもと、先ほど言った3つの施設の指定管理者、名古屋芸術大学の4人で連携を取りながら、事業を行います。こうしたことを模索しながら、活動しているところでございます。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。
福田委員、お願いします。

(福田委員)

歴史資料展示室のことでちょっとお伺いをするというか意見ですが、私も何度も足を運んだことがあるのですが、文字がすごく多いということで、子どもさんにとって何かよく分からない、魅力がないという、そういうことが多いですね。大人でもあれだけの文字を読みこなすというのはすごく疲れて、私もずっと最初から最後まで読んだのですが、椅子も何もなく疲れたので、ちょっと場所的に無理かなとも思うのですが、少しは腰を下ろしてゆっくり周りを見るとか、そういうことができればいいなとも思いますし、分からないからちょっと説明を聞きたいなとも思っても、近くにどなたもいらっしゃらないこともあって、勝手に見て帰ってちょうだいというような雰囲気があるものですから、あれでは足を運ぶ人もそんなにいないのではないかなと思います。

今、ミュージアムとかでは、映像もたくさん見せていて、子どもたちでも座ってその映像を見たら大体のことが分かるというところが多いものですから、清須市も

そういうふうに、座って映像を見たらある程度分かる、それでもっと詳しく知りたい人は、書いたものを見るというような企画にさせていただけると、もっと集客率も上がるのではないかなと、自分勝手な考え方ですが、そんな印象を受けました。以上です。

(野田会長)

何点かあったかと思います。すぐには難しい部分ばかりかもしれませんが、何か検討の対応ができそうな部分とかはございますかね。現時点では、中々すぐに回答できそうにはないですか。

(近藤生涯学習課長)

実際、そこで説明するパターンは中々難しいのですよね。すぐに説明できる方がいるかないかという部分で、今、振興員の方が2人お見えですが、他の仕事の整理を一緒にしていただいているところがありますので、ここにずっと配置ということは難しいところがあります。

あと、子どもさんにも魅力があるような、分かりやすいようにという部分は、ちょっと相談させていただきたいなというところがございます。

(野田会長)

ありがとうございます。
中田委員、お願いします。

(中田委員)

今の意見に補足で、ちょっと的が外れているかもしれませんが、キリンビールさんに見学に行くと、何回行っても、また忘れていたことがよみがえるという感じで、すごく楽しいのです。一般企業と行政とは違うかもしれないですが、せっかく委員になってらっしゃるので、キリンビールさんに意見を聞いて、こういうふうにと、ここはいくらぐらいですよとか、ここはいいですよというような良い案をもらって、それを活用したら子どもたちも絶対喜ぶのではないかなと思いますし、ボランティアさんで色々活動しているものもいっぱいあって、何曜日から何曜日、何時から何時というふうに区切ったら、ボランティアさんも活動できると思うので、そういうところにも応援を頼んでやると、すごく良いものになるのではないかなと思いますので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。
福田委員、お願いします。

(福田委員)

私も中田委員と同じですが、市の職員さんが説明するとか、そういうことは色々なお仕事もありますので、本当に難しいと思います。歴史に興味のあるボランティアの方とかがいらっしゃると思うので、そういう方の力をお借りして、また、そういう方もそういうところで説明したりすると、生きがいを感じられたりとかいうこともあると思いますので、ボランティアさんを上手に使っていただく方法でお考えいただけたらありがたいなと思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

途中でキリンビールの話が出ましたが、福井委員、何かあれば。

(福井委員)

過大な評価をいただきまして恐縮しております。

特段すごく特徴的なことをやっているわけではないのかなと思っているのですが、一つ、今回達成度指標のところ、来場者数というところを指標にしていますけれども、もし可能であれば、これに加えて、来場者の満足度みたいなところも指標に加えたらいかがかなと思っています。

また、キリンビールの工場見学ですと、WEB上ですけれども、お客様にスマホを使ってアンケートをとっていただいたりしていて、そういったお声を拾って次につなげていくというところもやっていますので、その辺りも参考にいただければと思います。

あと、清洲城とか図書館とか、もちろん朝日遺跡もですが、タイアップしたイベントなどについては、全く問題なく今後もやっていきたいと思いますので、ぜひ連携してやっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(野田会長)

ありがとうございます。

非常に生産的なご意見をいただいて、施策の分厚さみたいなものを確保できるような形になるかと思っておりますので、ぜひ連携していただけたらと思います。

今、概ね2時間くらいにはなったのですが、この施策603についてはこれくらいでよろしいですかね。

高山委員、お願いします。

(高山委員)

非常に細かいところで、記載の話ですけれども、「文化財保護事業費」の活動指標

②「文化財講演会の参加者数」が目標をかなり下回っているのに、施策の評価と今後の方向性のところでは「文化財講演会・講座ともに受講者に大変好評だった」という記載があるので、この辺りの整合性がちょっとどうかと思います。

(野田会長)

事務局、お願いします。

(近藤生涯学習課長)

活動指標②の目標値に 150 人とありますが、実は平成 27 年度に、織田信長や戦国時代のお城を専門としている、全国的に有名な奈良大学の千田先生にご講演をいただいたところ、当日雨が降っているにも関わらず、150 人もお見えになったということがあって、これが指標になってしまっているところがあります。これは、過去一番高い数字です。その他の年については、毎年定員を設けているのですが、ほぼ一杯で、たくさんお見えになりますが、平成 30 年度は、40 人を定員として募集しており、40 人はみえましたということになっております。

(野田会長)

それは特に書くべきでもないような気はしますし、できれば書きたいなと思ったのですが、突出したような記述になりそうですので、書くことまでは必要ないかと思いますが、一応評価としては、そのまま読み取りにくい部分もございましたので、こういう記述のところでは何か工夫ができる部分があれば工夫するなど、再考だけしていただいて、このままいくということであればこのままでということをお願いできればと思います。

一応、以上で全てについてご意見をいただきましたが、もう一回遡って何かご意見があれば、他の分野も含めてお受けしたいと思います。どうでしょうか。

齊藤委員、お願いします。

(齊藤委員)

今回の個別の案件についてということではないのですが、参考資料 2 の主な回答理由を読んでいますと、かなり住民の方もユートピアな世界があって、これもやってほしい、あれもやってほしいというような意見が多い中で、これをやってくれないから満足度が低いみたいな形になってしまっているところもあるのかなと感じました。他市ではやっていますとか、そういうような意見も書いてあることが見受けられましたので、例えば、もうやってらっしゃるかもしれませんが、アンケートを送るときに、市の財政状況というか、この限られた予算の中で配分しているのですよというようなことが、ぱっと見て分かりやすいようなものも一緒に入れたり

すると、アンケートだけでもかなり大変な作業ですけど、やはりメッセージにはなるのかなというふうには思いました。

ですので、やってくれないと満足度は下がるのかもしれないですけど、例えば民間の私的財産とかの購入であれば、私たちは自分たちでお金を払って、それで対価を受けるけれども、税金は人によって払っている額も違うしということで、払っている感覚もあまりないし、そこに対してどれだけ費用がかかっているかというのはすごく意識が薄くなると思うので、そういうところも合わせて、住民の方にもPRしてもらいたいなと思ったところです。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。

アンケートでというお話でしたが、この件についてはまたご検討いただければと思います。

中田委員、お願いします。

(中田委員)

施策 203 の主な取組結果にある「小学校入学卒業記念品費」の事業の見直しとして、この事業では小学校1年生にランドセル、防犯ブザー、黄帽子を与えてくださっているのですが、ランドセルは皆さん使っているのかなというのがすごく疑問です。放課後子ども教室に来る1年生で1人目の子たちは、ほとんど清須市のランドセルを使ってなくて、様々な色の素敵なランドセルを使っています。ですので、これを辞退する家庭はあるのかな、それともみんな全員強制的に貰うのかな、保護者の方から「こんなの全然いらぬ」という意見は一度も聞いたことがないので、いただけるものはいただいて、もしも壊れたらそれを使う、あるいは誰かに譲るというふうにしているのかなと思うのです。

ランドセル1個でもお金は結構かかっているんで、これを欲しい人はもらって、欲しくない人は代替品をあげますというふうにするのはよくないのかなと毎年思うのですが、いかがなものでしょうか。

(野田会長)

取組結果における、非常に具体的な個別の話ではあるのですが、ランドセルについてちょっと勿体ないのではないかという部分もあるのではということですね。これは、前の市長さんのときに始められたもので、ずっと継続してやられていたということもあって、今の市長さんも継続されているというイメージなのかなと思いますが、実態についてご存知の部分がありますでしょうか。どうするかというのは、一存で決められないと思いますけど、何か把握されているものがあれば、お願いし

ます。

(石黒学校教育課長)

本年度につきましては、全ての方がランドセルをお持ち帰りいただいております。中田委員が言われるように、ご家庭で用意される方も当然みえますが、雨の日とか、そういうときに貰ったものを使っているというような実態もあるそうです。ですので、皆さんある程度喜ばれているというか、使っていただいているものだというふうに聞いていますし、加藤前市長の頃から、清須市はこの事業はやっていくのだというような形でありますので、先ほど言いましたように、全然使わないから他のものに変えてよというようなご意見は、まだ直接は聞いておりません。学校教育課の前に、見本が常日頃から置いてありまして、ゴールデンウィーク前にたまたまみえる方は、手にとって、これが貰えるのだなということで見ていかれる方も多々おりますので、続けていくという考えでおります。

(野田会長)

ありがとうございました。

とりあえず、今のところ市民からの評価としては、一定評価されているということですね。

(葛谷副市長)

すみません、ちょっと歴史的な話があるので、私の方からお伝えさせていただきます。

このランドセルの支給は、旧新川町の時代から始まりまして、私の年齢の六つくらい下の者から始まった制度です。ですので、私ももう 61 歳になるので、50 年くらいにはなるのではないかと思います。

当初は、華美なランドセルとか良いランドセルが買える人、買えない人というのがあった時代で、そうやって子どものランドセルで競争させるようなことはいけません。子ども自身が、「私は良い物を持っているんだよ」とか「私はこんなのみしか買ってもらえなかったよ」と思うことがないようにしなくてははいけません。子どもは平等な形で、どんな物を持ってこようが勉強にくるのだよということを主眼において制度化されたものですので、旧新川町の時代からいくと、この制度をやめてくれとかそんなことは全くなく、これは良い制度だということで、ランドセルは昔から高い値段だったと思うので、どの保護者さんからも、負担が随分軽減される、他のことにお金を使って子どもさんを小学校に入学させてあげられるということで非常に好評を得た、その頃の時代の制度だったと思います。子どもさんのランドセルが同じで学校生活を送れるというのは、良いことだということで、加藤前市長は進めてこられました。今の永田市長も、この制度はこのまま続けていきたいということで、

何卒ご理解とご協力を得たいなというふうに市長に代わって代弁させていただきます。よろしく願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございます。

歴史的にやっていて、一応ずっと評価を受けているということですので、今後も、市民がどう感じているのかということも踏まえながら、継続を検討なさっていくということですね。わかりました。

もう一人くらい、もし何かあればお願いします。

福田委員、お願いします。

(福田委員)

そのランドセルのことについてですが、10年ほど前の合併するときに少し話し合いをしまして、その時に、ランドセルより他のものをいただく方がいいとかいう意見も少し聞いたことがあったのですが、そういうことを市全体でやるということは、一応ランドセルでということを決めていますし、やっぱり人によって欲しいものというのは色々違いますので、私はそれはいらないから他のものにしてちょうだいとか、そういうことはとても対応が無理だから、やっぱりランドセルにしましようとなって、他のものにはしないということになりました。そんな経緯があるものですから、清須市では小学校1年生でランドセルを買わなくてもいいのだよという話が結構広まっていて、「えー、そうなの。そんな良いことがあるのだ。」とおっしゃる方もいますし、おじいちゃんやおばあちゃんでも、ランドセルを買わなくて済むなら、他のものでちょっと良いものを買ってあげようということを考えていらっしゃる方もいますので、市と教育委員会としては、一応そういう方向性で、当分やっというふうなことになっております。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。

市民の間でも議論されてきた、貴重な興味深い事例かと思っておりますので、継続していただければと思います。ありがとうございます。

当初の予定よりも10分くらい時間が過ぎてしまって申し訳ないのですがけれども、概ねこれで、評価の仕方、改善すべきところについてはご意見をいただきましたので、今後改善に向けてご検討いただければと思います。

今日、皆様からいただいたご意見を踏まえて、事務事業の見直し・改善等をこれから進めていただいて、またどこかの機会でお伝えいただくことにしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、事務局から事務連絡などございましたら、お願いしたいと思います。

(後藤企画政策課長)

皆様、長時間どうもありがとうございました。

本日皆様からいただいたご意見等につきましては、内部で再度検討をさせていただきまして、第2回の委員会において、検討内容についてお示しをさせていただき、ご意見をいただきたいと考えております。

また、次回以降につきましては、次期プラン、第4次行政改革大綱となりますが、こちらの策定についてもご審議をいただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。

第2回の委員会につきましては、スケジュールにありましたとおり、10月の開催を予定しておりますが、詳細につきましては、改めてお知らせをさせていただきたいと思っております。

本日は長時間に渡り、ご審議を賜りましてありがとうございました。以上をもちまして、終了とさせていただきます。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3214)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 川口 大輔

署名委員 山田 康博